

CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2019年版、名古屋大学環境工学部環境工学研究室) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オープンレジデンス名駅南 THE COURT	階数	地上14F
建設地	名古屋市中村区名駅南一丁目1209番	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	128 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年9月 予定	評価の実施日	2020年12月18日
敷地面積	525 m ²	作成者	
建築面積	313 m ²	確認日	2020年12月21日
延床面積	3,531 m ²	確認者	

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE0.9 ★★★★★★☆☆☆☆ ★: S: ★★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★ C 環境負荷 L	☆☆☆☆ 100%超: ☆☆☆ 100%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 30%: ☆☆☆ 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	Q1 室内環境 Q2 サービス性能 Q3 室外環境(敷地内) LR1 エネルギー LR2 資源・マテリアル LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.9 音環境 温熱環境 光・視環境 空気質環境	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 2.8 機能性 耐用性 対応性	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.2 生物環境 まちなみ 地域性・
LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.4 建物外皮の 自然エネ 設備システ 効率的	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9 水資源 非再生材料の 汚染物質	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.2 地球温暖化 地域環境 周辺環境

3 設計上の配慮事項		
総合 自然環境に配慮し、周辺環境に調和するように建物を計画し、室内環境の快適性に配慮した。また、社会の良質なストックとなるよう躯体の耐久性を高め、CO₂排出量の削減に努めるなどとして、ライフサイクルを通じた環境負荷低減をめざした。	その他	
Q1 室内環境 遮音性能の高いサッシの採用や、外壁・屋根・窓などの高い断熱性能、庇等による日射熱負荷の低減により室内環境の快適性を高めた。また、全面的にF☆☆☆☆の装仕上材を用い、シックハウス対策に配慮した。	Q2 サービス性能 可能な限り居室天井高を2.45mとし、ゆとりある住空間の確保に努めた。また、躯体耐用年数は劣化対策等級3相当とし、建物の信頼性についても考慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 周辺環境に対して良好な景観を形成するように配慮した。
LR1 エネルギー 省エネルギー対策等級3相当の断熱性能や、潜熱回収給湯器の利用により建物の熱負荷抑制に配慮した。	LR2 資源・マテリアル フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。	LR3 敷地外環境 敷地内に十分な駐車・駐輪台数を確保して周辺道路に路上駐車することのないよう配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

オープンレジデンス名駅南 THE COURT

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策					3.5
LR1	エネルギー		3.5	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮		4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.05	
2. 自然共生					1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出		1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮				
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上				
3. 循環型社会					2.9
LR2.1	水資源保護		3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減		2.9	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2		2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.9



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。